



デメテル Demeter

群馬県立自然史博物館だより No.55

Newsletter of Gunma Museum of Natural History 2012.秋

デメテルはギリシャ神話に登場する大地の女神で、群馬県立自然史博物館のシンボルマークになっています。



2012.9.22 (土) ~ 11.18 (日)

【摩訶不思議な世界へようこそ】

写真:出川洋介

キラキラと光るわずか数ミリの美しい水玉。草食動物の新しい糞の上に生えるカビの中で、最初にでてくるミズタマカビの一種です。その美しさとは対照的に、黒い胞子囊の下にあるふくらみから水が噴射されることで、胞子囊が打ち出されます。その速さは自然界で最速です。

森のそうじをしたり、森の生物をはぐくんだり、森をつくったり…。そこには、私たちの目には見えないけれど、ありとあらゆるところにいる「菌類」、キノコとカビの仲間たちが大活躍しています。地球上の生物にとってなくてはならない、かけがいのない「菌類」の摩訶不思議な世界を紹介します。

日付	企画	時間	講師	定員
9月30日(日)	講演会「冬虫夏草は面白い!!」	13:30~15:30	内山 茂【日本冬虫夏草の会】	100名(先着順)
10月14日(日)	展示会「秋の野生きのこウォッチング」	9:30~17:00	協力:群馬県野生きのこ同好会	20名(先着順)
	自然教室「キノコハウス体験ツアー&野生キノコを観察しよう」	10:00~12:00	大井俊一【群馬県富岡保健福祉事務所】	
	講演会「毒きのこってどうなの?」	13:30~15:30	松本哲夫【群馬県林業振興課きのこ普及室】	
10月21日(日)	講演会「菌類と私たちの生活」	13:30~15:30	細矢 剛【国立科学博物館】	100名(先着順)
11月 4日(日)	自然教室「おだしのことなら!!にんべん食育プログラム」	13:30~15:00	木村絵里子【(株) にんべん】	20名(先着順)
11月11日(日)	講演会「うんこはごちそう」	13:30~15:30	伊沢正名【糞土師】	100名(先着順)
11月18日(日)	自然教室「家庭で楽しむキノコ栽培」	13:30~15:30	中沢 武【(財)日本きのこ研究所】	20名(先着順)

◎対象は、すべて小学生以上。(小学3年生以下は保護者と一緒に参加)◎参加費は、自然教室が50円(保険料)、他は無料。
◎申込方法は、各イベント開催日の1か月前の9:30より電話で受付。

展示 詳解

自然のフォトギャラリー

サバンナの風 写真に見るアフリカの大地

特別展 期日:2013年1月1日(火)~2月24日(日) 観覧:常設展入館券で観覧可



博物館で写真展? 一見、不釣り合いに思える取り合わせですが、動物や植物、自然を扱った写真は多くの人を魅了して止みません。一瞬の姿を捉えた画角の中に、純粋な美も、そのものが持つ真実の姿も映し出されています。

当館の写真展も今年で3年目を迎えます。この間に、飯島正広動物写真展、埴沙蒨植物写真展を行い、多くの来館者に自然や生物の神秘をお伝えしてきました。本年度は、アフリカの壮大な大自然をお届けします。

今回展示する写真は、その半数以上がサバンナクラブの会員がアフリカで撮影した写真です。「サバンナクラブ」、なじみの少ない名称かと思えます。元労働組合委員長への不当な扱いと日航機事故を扱った山崎豊子作の小説「沈まぬ太陽」のモデルとなった故小倉寛太郎が中心となって設立した団体です。アフリカを愛し、アフリカについて語り合い、理解を深め、そしてアフリカを支援することを目的とした団体です。

今回の写真展では、同クラブの写真の他、故小倉氏が撮影した写真や彼の遺品、そして彼が収集したアフリカの動物剥製を展示します。アフリカの自然や動物の雄大さ、荘厳さ、そして保護活動の尊さを感じていただければ幸いです。

(学芸係 三田照芳)



自然のコラム「カメラトラップ調査」

悠々と歩くシカの姿。自動撮影カメラ*がとらえた1コマです。

自然史博物館では、地域の方々のご協力をいただきながら、上野村、玉原、桐生をはじめ、県内各地にカメラを設置し、野生動物の生息状況についてモニタリングを行っています。

カメラには、コウモリやネズミ、テンなどの小型哺乳類や、クマ、シカ、イノシシなどの大型哺乳類の他、鳥類など、多様な動物が撮影されます。過去数年の傾向としては、シカが中山間地域を中心に多く撮影されるようになりました。また、それまではハクビシン、アライグマ等の小型哺乳類しか撮影されていなかった都市部において、イノシシが撮影されるなど、大型哺乳類の生活圏が、私たちの生活圏と重なってきていることが伺えます。

これから生息状況がどのように変わってくるのか。カメラの設置台数、設置地点を増やしながら、県内の状況をきめ細かく把握するよう努めていきたいと思えます。

(学芸係 姉崎智子)

*注:赤外線センサーカメラは、熱を感知し、その熱源の移動に反応する仕組み。



二ホンカモシカ



二ホンシカ



ツキノワグマ



ツキノワグマ



テン

群馬のイルカ・クジラたち

ホエールウォッチングといえば海ですが、海のない群馬も彼らと深いつながりがあります。群馬はクジラ・イルカの化石がたくさん見つかることで有名なのです。特に今から1600～1000万年くらい前の地層からたくさんの化石が見つかっています。そこで県内から見つかった『化石ホエールウォッチング』をしてみましょう。

【ジョウモウクジラ】

この化石は高崎市吉井町から見つかりました。ケテリウム科という現在では絶滅してしまったグループのクジラです。現生のクジラの中ではナガスクジラの仲間と最も近縁ですが、ジョウモウクジラは体長が4～5m程度で、現生のナガスクジラの仲間に比べるとかなり小型です。このクジラの属名は *Joumocetus* で、これは「上毛」とラテン語でクジラを表す *cetus* に由来します。つまり群馬のクジラという意味です。この標本は平成24年3月23日に群馬県の天然記念物に指定されました。



図1：県指定天然記念物ジョウモウクジラ(キャスト)

【マッコウクジラの仲間】

安中市から見つかったこの化石は、太い顎の骨に立派な歯がはえています。この群馬の化石とよく似た特徴をもつ化石が長野県から見つかっていて *Brygmophyseter shigensis* と名付けられています。現在のマッコウクジラは



図2：マッコウクジラの仲間
左は長野県から見つかった *Brygmophyseter* の頭蓋(復原)
右は群馬県で見つかった標本(縮尺は任意)

エサを吸い込んでたべていますが、*Brygmophyseter* は大きな歯でがぶりとエサとなる生物に噛み付いていました。恐らく当時の海では、巨大なサメ「メガロドン」と共に、最強の捕食者だったと思われます。ひょっとしたらジョウモウクジラも彼らの餌食になっていたかもしれません。

【イルカの仲間】

この化石はケントリオドンという絶滅したイルカの仲間、現在のいわゆる「イルカ」と呼ばれているマイルカ上科の祖先にあたります。県内で見つかるクジラ・イルカの化石の中でも、最もたくさん見つかっていて、当時の群馬の海で彼らが現在のイルカたちのように群れをなして泳いでいた様子が目に浮かびます。

ケントリオドン以外にも、少なくとも3種類の当時の群馬の海を泳いでいたイルカの仲間の化石が見つかっています。中でも最近発見された化石は、頭からしっぽの先まで、ほぼ全身の保存された非常に保存のよいものです。椎骨の骨端が椎体に癒合していないことから明らかに未成熟の個体なのですが、これまで県内から知られているイルカの仲間の化石よりも遙かに大きくて別の種類であると考えられます。今後、骨を石のなかから取り出して、この化石が一体どのようなイルカの仲間だったのか詳しく調べる予定です。



図3：イルカの仲間(ケントリオドン類)

ここで紹介した化石は、いずれも県内に住む化石愛好家の方々によって発見・発掘され、当館に寄贈いただいた標本です。このように私たちの足元にある群馬の大地からはたくさんのクジラ・イルカたちが見つかっており、さらにはたくさんのクジラ・イルカたちが今もなお眠っているはず。その中には知られざるクジラたちの進化の歴史を明らかにする鍵となるものもあるかもしれません。そして、その化石を見つけるのはあなたかもしれません。

(学芸係 木村敏之)

[シリーズ 博物館周辺のキノコ その2]

森を育む菌根菌

スーパーの野菜売り場には、シイタケやナメコなど栽培キノコが売られています。最近では、エリンギやヤマブシタケ(写真1)など種類も豊富になっています。キノコはかつては植物の仲間と考えられていました。しかし、キノコは植物のように光合成を行い自ら生命活動に必要なエネルギーをつくりだすことはできません。キノコは菌類と呼ばれ、私たち人間と同じように他の生物から栄養を得ている従属栄養生物です。生態系の中で考えると植物は生産者、動物は消費者、菌類は分解者と呼ばれています。菌類が分解者と呼ばれるのは、生物遺体や老廃物などを栄養源とし、有機物を分解して吸収しているからです。

キノコには、植物と共生関係にある、菌根菌と呼ばれるものがあります。写真2のシロハツモドキは、地面から生えているようにみえます。しかし、菌糸をたどっていくと、木の根にたどり着きます。キノコは植物から光合成産物を受け、植物には、キノコが菌糸で吸収した栄養を与え、共生しているのです。手で簡単にさけてしまうシロハツモドキですが、地面やコケを力強く持ち上げている様子を見ると、力強い生命力を感じさせられます。

それと同時に、地中ではシロハツモドキの菌糸が樹木に栄養を与え、大木へと育つ手助けをしています。シロハツモドキに限らず、植物と共生関係にある菌根菌は豊かな森を育むためにはなくてはならない存在なのです。(学芸係 篠原克実)



(写真1) ヤマブシタケ



(写真2) シロハツモドキ

バックヤードツアー30 — 博物館収蔵庫・研究施設の紹介 —



今年度から毎月第1日曜日の13:30～14:00の30分間で収蔵庫等を案内する「バックヤードツアー30」を始め、好評をいただいております。バックヤードツアーは、普段は公開していない収蔵庫や研究施設を来館者の方に館職員が紹介するツアーです。収蔵庫に保管してある様々な標本、資料整理の仕方や職員が取り組んでいる

調査・研究などについて紹介しています。地下の第一収蔵庫では、岩石・鉱物・化石及び現生の脊椎動物骨格標本をご覧いただけます。ナウマンゾウのコレクション化石や「巨大なアクアマリン」は一見の価値があると思います。また、研究施設では見学するだけでなく、研究内容について学芸員から直接、話を聞くこともでき、運がよければ解剖室で野生動物の解剖や分析のようすも見る事ができます。自然に関する最先端の情報を県民の皆様にご提供できるように、日々バックヤードで学芸員が研究を進めています。(教育普及係 岩井利信)

利用案内

■開館時間	午前9:30～午後5:00(入館は午後4:30まで)	
■休館日	毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)	
■観覧料	一般	高校・大学生
	500円	300円
常設展のみ開催	500円	300円
第41回企画展開催時 (H24.9.22～11.18)	700円	400円

※中学生以下、身体障害者手帳・療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介護者1名は無料となります。
※有料者20名以上は団体料金で2割引となります

群馬県立自然史博物館だより
Demeter No.55

編集・発行 群馬県立自然史博物館
〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1
Tel.0274-60-1200 Fax.0274-60-1250
ホームページ
<http://www.gmnh.pref.gunma.jp/>